

## 「熱処理」執筆要項

- 1.原稿は、原則 Word 版で A4 版の白紙を用い、短辺を上下側にして横書きとする。英数字は半角文字を使用する。
- 2.審査終了後は、図、表、写真は使用 OS、ソフトウェア、そのバージョン等を明記した修正済電子データを、本文については修正済み Word 版ファイルを提出する。
- 3.図、表、写真は、本文中に挿入せず別紙とし右下隅に著者名を記入する。挿入位置を本文用紙右側の余白に指定する。カラー印刷に要する費用は、著者の実費負担とする。ただし、編集委員会が特に認めた場合には無料とする。
- 4.刷り上がり 1 ページは、2,800 字に相当する。図面 1 枚(縦約 10cm、横 7cm、図、表題、説明を含む)は平均して、600 字に相当する。ただし、1 ページ目はタイトル、著者名等記載のため約 1,000 文字分少なくなる。
- 5.原稿は刷り上がり 6 ページ程度を原則とする。ページ数を超える場合は、分割投稿・縮小再投稿をお願いすることがある。
- 6.題目は、簡潔で本文の内容、特徴を最も良く示したものでなければならない。また、5 語句程度の英文キーワードを付記する。
- 7.概要は、和文と英文の 2 種類を併記すること (J-STAGE 対応)。困難な場合は、事務局まで相談のこと。
- 8.原稿は、読者が内容を理解しやすいように、平易な文章で書く。旧仮名遣いはさけること。
- 9.外来語のうち日本語として定着した語は、片仮名で表記する。ただし、一般に周知していない外来の技術用語は片仮名書きの後、原語を ( ) 内に書き添える。
- 10.術語は、原則として JIS G0201(鉄鋼熱処理用語)、JIS B6905(金属製品熱処理用語)および関連学会で規定されているものを用いる。なお、その他の用語については、通常用いられている用語を用いる。
- 11.ローマ字、ギリシャ文字、他と混同されやすい字などは、印刷に当たって間違いを起こさないように明瞭に書く。その文字の直上に、大文字を示すとき「大」、小文字を示すとき「小」、ギリシャ文字を示すとき「ギ」などと、赤字で記号を付けることが望ましい。
- 12.数字は、数量を表すときはアラビア文字とする。小数点については 1.02 のように書き、1,02 とはしない。
- 13.句読点について、句点は「。」(全角)、読点は「,」(全角)を使用すること。
- 14.章、節、項の表示は、次のようにする。  
章:1  
節:1.1  
項:1.1.1
- 15.単位は JIS による。
- 16.数学記号は JIS Z8201 による。

17.量記号、単位記号および化学記号は、JIS Z8202 による。

#### 18.参考文献

- 1) 参考文献には、通し番号を付け、本文の最後に一括して示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号を上ツキ数字で示す。例：○○(1)。
- 2) 参考文献は、雑誌の場合、著者名（全員）、雑誌、巻数、発行年、開始ページ、終了ページの順に記述する（例 1, 2）。和文誌名は、略記しない。欧文誌名は、国際的慣行にしたがって略記してもよい。（例 2）。同じ巻数の中で通しページのない雑誌の場合には、巻数の後に号数を記入する（例 3）。国際会議等のプロシーディングスの場合、著者名、書名、編者（全員）、出版社、出版地、発行年、開始ページ、終了ページの順に記述する（例 4）。単行本の場合、著者名（全員）、書名、出版社、出版地、発行年、開始ページ、終了ページの順に記述する（例 5）。プロシーディング、単行本の書名はイタリック体で記述する（例 4, 5）。
- 3) 私信、非公開または一般に入手しにくい文献をあげることは好ましくない。止むを得ずあげる場合には、責任者の氏名および所属機関名を示し、「私信」であることを明記する。（例 6）

例 1: 渋谷佳男, 木村啓造: 熱処理 **24** (1984) 114-120.

例 2: E. Abe, Y. Kawamura, K. Hayashi and A. Inoue: *Acta Mater.* **50** (2002) 3845-3857.

例 3: 古川敦史, 池田知廣, 岡山竜也: *Honda R&D Technical Review* **29** No.1 (2017) 84-90.

例 4: N. J. Grant: *High-Strength Powder Metallurgy Aluminum Alloys*, (eds. by M. J. Koczak and G. J. Hildeman, The Metallurgical Society of AIME, Warrendale, PA, USA, 1982) pp. 3-18.

例 5: S. Banerjee and P. Mukhopadhyay: *Phase Transformations*, (Elsevier, Amsterdam, Netherland, 2007) pp. 49-52.

例 6: 渡辺 敏(法政大学 工学部 機械工学科): 私信 (1988).

(2021 年 6 月 11 日改訂)